

事業実績書

事業	後志教育講演会
実施期日	令和7年8月1日（金） 14:00～16:00
実施会場	倶知安町文化福祉センター 公民館中ホール 倶知安町南3条東4丁目 ※問合せ先 後志教育研修センター TEL0136-22-1337)
参加対象者及 参加人数	・管内の教職員、教育関係者 83名
事業の内容	教育講演会 ・講師 新保元康 氏 （認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長） ・演題 『次期学習指導要領と学校DX』
事業実施による効果	社会背景が急激に変化する Society5.0 時代、社会全体のデジタル化・DX の加速化、グローバル化の進展などの社会構造が大きく様変わりする今日である。 これからの次代を担う子供たちには、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる資質・能力を身につけることが求められている。 今年度は、北海道の魅力や地理、歴史、文化、産業等を「ほっかいどう学」として、子供から大人まで幅広く学び、地域に関する理解と愛着を深める取組を促進している、新保元康氏を講師として迎えた。 講演では、これからの学校の姿として、大きな三つの柱が示された。 一つ目は、これからの学校は日常が大切として、特別の人が特別な授業をするのではなく、小さな簡単なことの中に未来があるということである。 二つ目は、残業は減らし教育の質を上げる。そのためには、国や教育委員会の工夫だけではなく、学校の小さな工夫が欠かせないということである。 三つ目は、教員は最高の仕事として、その面白さを楽しむことである。 参加者からは、「学校の効率化のために、目的を持って ICT を活用しないと、使うことが目的になってしまうことに改めて気づいた。」「主体性や自己肯定感を育むには、内発的動機づけが不可欠である。ただしそれだけではなく、子供に寄り添った外発的動機づけが欠かせないことを学んだ。」「個別最適な学びと協働的な学びのためには、委ねる、任せるだけではなく、主体性を伸ばす支援について、一層深く理解できた。」等の感想が、多数寄せられた。 講演全体を通して、『わかる授業づくり』を通して、子供一人一人に関わっていくことの大切さを再認識する、深い学びとなった。 講師からの「一人でやろうとせずに、みんなで協力していくこと。それを可能にするには、普段からの仲間との会話が大切である。」等、これからの学校の在り方について、貴重な示唆をいただいた。 今回は、会場収容人数の関係で参加人数の制限を行ったため、主催者挨拶で、職場の代表として集まっていたいただいた意義を再確認した。研修センター創立50周年記念講演会での学びを、職場や地域において還元したいいただけるものと、大いに期待をしている。

設立五十周年記念

第五十八回後志教育講演会

演題 「次期学習指導要領と学校DX」

期日 令和 七年 八月 一日（金）

会場 俱知安町文化福祉センター

公民館中ホール

講師 新保 元康 氏



祝辞 後志教育局長 岡内 誠 様



主催者挨拶 所長 木村 和義



謝辞 所員 川越 博之



来賓の方々



来賓紹介 所員 清水 栄治



会場の様子



講師紹介 事務部長 中田恭太郎



花束贈呈 事務主事 菅原宮留美



講師 新保 元康 氏